

(報告書)

コロナ時代における嗜好品を楽しめる空間創出の試みに関する研究

石原 肇（近畿大学・地方自治）

1. 研究目的

浦野（2021）は、新型コロナウイルスが蔓延していく状況をふまえ、都市生活の健全な継続と都市文化を継承しつつ、こうした感染症や巨大災害に耐えうる都市のあり方が今まさに問われていると指摘している。この指摘は、新型コロナウイルスの発生を受け、日本では新型インフルエンザ特別措置法を改正し対応が図られ、国民とあらゆる業界が、密閉、密集、密接のいわゆる三密を避けるための行動が求められていることに起因するものと考えられる。

本研究の対象地である兵庫県伊丹市は兵庫県東部に位置し(図 1)、市域の面積は約 25.09 km²、人口は 198,138 人（2020 年 10 月、国勢調査）となっている。周囲は兵庫県尼崎・西宮・宝塚・川西の各市や大阪府豊中・池田両市と接している。2020 年 6 月 19 日、伊丹市が幹事市となり、神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市の 5 市で要請を行った『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』が 2020 年度の日本遺産に認定されている。

伊丹市は、中心市街地活性化基本計画策定市であり、従前より様々な地域活性化イベントを実施してきている（綾野 2017）。ことに「伊丹まちなかバル」は有名で 2009 年から継続開催してきている。バルイベントは、2004 年の「函館西部地区バル街」での開催に始まり、この開催を端緒として、2009 年に千葉県柏市や兵庫県伊丹市で開催され、その後、全国各地での開催が飛躍的に増加してきている回遊型の飲み食べ歩きイベントである（写真 1）。バルイベントは、賑わいの創出が目的の一つであり、今般の新型コロナウイルスへの感染症対策の観点から三密の回避を同時に達成していくことは難しい。



図 1 伊丹市位置図

資料：伊丹市 HP から引用

このため、「伊丹まちなかバル」の開催は、2020 年春以降は中止となっている。また飲食店は大きな打撃を受けてきている。このような中、伊丹市では、路上空間を活用して従来は夏と冬の年 2 回開催している飲食店による「伊丹郷町屋台村」が 2020 年 10 月に開催された（石原 2021）。

泉山（2020）は、2020 年に入り、都市再生特別措置法の改正をふまえ、官民連携のまちづくりは新たな時代が到来したとし、ウォークブル（居心地よく歩きたくなるまちなか）が推進されていることを報告している。また、コロナのパンデミックにより、感染症対策のほか、在宅勤務や非接触端末などのテクノロジーの発展的導入など、ライフスタイルの変化や都市のあり方が模索されてきているとも指摘している。

ここで、本研究に関連するコロナ禍における公共空間の活用の観点からの先行研究をみると、泉山他（2020）が「コロナ道路占用許可」における路上客席の可能性と課題として、路上客席の緊急措置に関する速報的考察を行っている。また、コロナ禍における商店街の状況に関するアンケート調査が兵庫県神戸市（長坂・新 2021）や山形県酒田市（渡辺・水谷 2021）でみられる。しかし、コロナ時代における嗜好品を楽しめる空間をどのように創出するかといった視点に着目した報告は見当たらない。

筆者が地方自治体や飲食店のコロナ禍での復興に向けた取組みの情報を収集する中、伊丹市で 2020 年に続き 2021 年に道路等の公共空間を活用し密閉を回避する「伊丹郷町屋台村」が同年 11 月に開催されるとの情報を得た。そこで、本研究では、2021 年に開催された伊丹市の「伊丹郷町屋台村」を題材として、コロナ時代における嗜好品を楽しめる空間の創出について、その取組みの成果と今後の課題について報告することを目的とする。

2. 研究方法

（1）伊丹市役所へのヒアリング

まず、伊丹市役所に、道路等の公共空間を活用した方策の構築プロセス等についてヒアリング調査を行う。また、下記（2）の調査結果を同市役所に提示し、今後の公共空間を活用した方策の方向性についてヒアリング調査を行う。

（2）「伊丹郷町屋台村」に参画する飲食店と参加者へのアンケート調査等

つぎに、路上空間を活用した「伊丹郷町屋台村」に参画する飲食店と参加者へのアンケート調査を実施する。加えて伊丹郷町屋台村実行委員長に運営に関してヒアリング調査を行う。

1) 経過と概要

2021年4月25日から発出されていた第3回の緊急事態宣言が2021年9月30日に解除された（表1）。伊丹市在住の新型コロナウイルスの感染者数の推移を図2に示す。

表 1 緊急事態宣言の発出状況

回	発出期間
第 1 回	2020 年 4 月 8 日～2020 年 5 月 25 日
第 2 回	2021 年 1 月 8 日～2021 年 3 月 7 日
第 3 回	2021 年 4 月 25 日～2021 年 9 月 30 日

資料：内閣官房（2021）により筆者作成

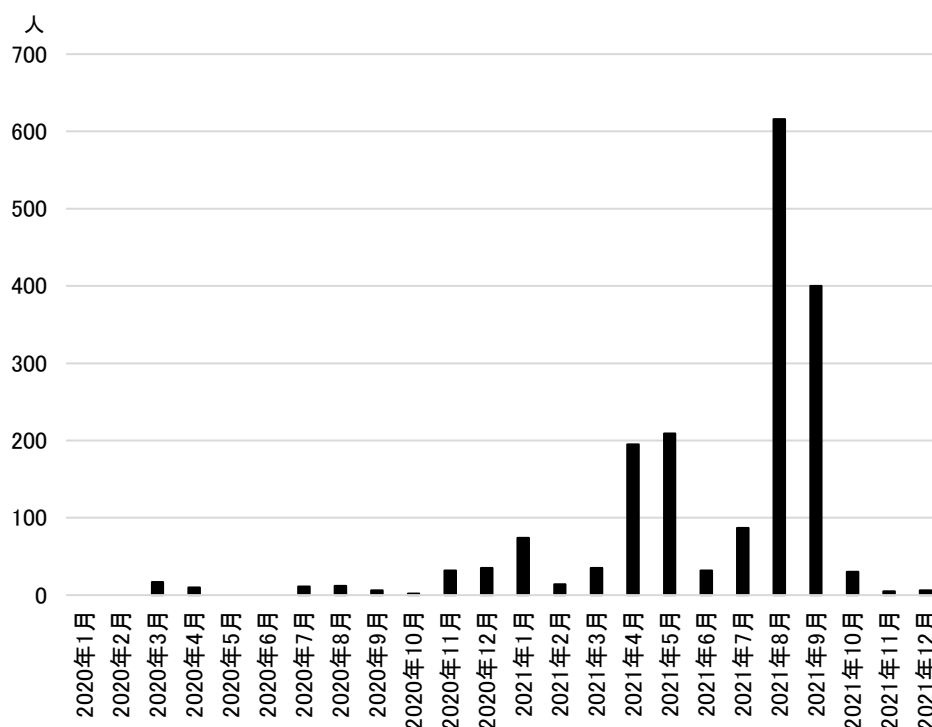


図 2 伊丹市在住の感染者数の推移

資料：兵庫県（2022）より伊丹市在住者を抽出し筆者作成

2021年10月8日に伊丹市から11月6日（土）・7日（日）の2日間、「伊丹郷町屋台村」が開催されるとの情報を得た。伊丹郷町屋台村実行委員会の江本和慶実行委員長に連絡を取り、本研究の趣旨を説明し、三軒寺前広場（図3）を活用する「伊丹郷町屋台村」（図4）に参画する飲食店と参加者へのアンケート調査実施の協力を依頼し、了承された。

以下に「伊丹郷町屋台村」の概要を示す。

開催日時：2021年11月6日（土）・7日（日）11時～20時30分

開催場所：三軒寺前広場

実施主体：伊丹郷町屋台村実行委員会

参加飲食店数：11店（図5） 座席数：300席

来客数：8,000人～10,000人（計測はしておらず推定：実行委員長談）

実行委員会本部のコロナ対策：参加者の空席時に消毒液を用いてテーブルの吹き掃除
 コロナ対策の呼びかけ：

- ① 必ずご自身で検温を実施しての来場 ② 感染症対策グッズのご持参
- ② ご飲食時以外でのマスクの着用 ④ こまめな手指の消毒



三軒寺前広場

図 3 三軒寺前広場位置図

資料：Microsoft Bing Map により筆者作成

図 4 伊丹郷町屋台村チラシ

資料：伊丹郷町屋台村実行委員会作製（2021）を引用



図5 伊丹郷町屋台村チラシ

資料：伊丹郷町屋台村実行委員会作製（2021）を引用

なお、天候についてみると、日本気象協会（2021）による神戸の観測データによれば、11月6日は晴のち曇で最高気温19.1度、最低気温12.6度、11月7日は晴、最高気温22.8度、最低気温15.7度であった。

2) 参加者へのアンケート調査

開催日の2021年11月6日（土）・7日（日）の両日、11時～20時30分まで終日、対面による調査票調査を実施した。質問は以下のとおりである。

- 1 お住まいの都道府県・市町村をお答えください（記述式）
- 2 年齢をお答えください（選択式）
- 3 性別をお答えください（選択式）
- 4 来た時間をお答えください（選択式）
- 5 何人で来られましたか？（選択式）
- 6 伊丹郷町屋台村への参加は何回目でしょうか？（選択式）
- 7 伊丹郷町屋台村の開催を何で知りましたか？（選択式）
- 8 伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベントに参加してどのように感じますか？（選択式）
- 9 伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベントについてコロナ対策の安全性を感じますか？（選択式）
- 10 屋外での飲食関係イベントの頻度についてどのように思いますか？（選択式）
- 11 屋外での飲食関係イベントは他の伊丹市以外の地域でも実施されることを望みますか？（選択式）

12 屋外での飲食関係イベントで重要と考える要素について○を付けてください（選択式
複数回答可）

13 伊丹市内で開催される他の飲食関係イベントに参加したことがあればご教示ください
（記述式）

14 伊丹郷町屋台村に関するご意見をお聞かせください（記述式）

3) 参加店へのアンケート調査

開催前日の 2021 年 11 月 5 日（金）14 時から、実行委員長の計らいで全飲食店にアンケート調査の趣旨説明と協力依頼をした。開催後に、実行委員長経由で参画する飲食店への調査票調査を依頼した。質問は以下のとおりである。

1 店名をお答えください（記述式）

2 年齢をお答えください（記述式） 3 性別をお答えください（記述式）

4 伊丹郷町屋台村への参加状況をお答えください（記述式）

5 2020 年の伊丹郷町屋台村への来客数について可能な範囲で結構ですでお答えください（記述式）

6 2021 年の伊丹郷町屋台村への来客数について可能な範囲で結構ですでお答えください（記述式）

7 伊丹郷町屋台村に参加してどのように感じますか？（選択式）

8 伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベントについてコロナ対策の安全性を感じますか？（選択式）

9 屋外での飲食関係イベントの頻度についてどのように思いますか？（選択式）

10 屋外での飲食関係イベントで重要と考える要素について○を付けてください（複数回答可）

11 伊丹市内で開催される他の飲食関係イベントに参加したことがあればご教示ください（記述式）

12 伊丹郷町屋台村に関するご意見をお聞かせください（記述式）

4) 実行委員長へのヒアリング

実行委員長に運営上の課題について、開催後に質問をするとともに「伊丹郷町屋台村」実施に際して協力関係にあるボランティアや商店街組合等の団体の照会をしている。

これらの調査結果から、コロナ時代における市民が嗜好品を楽しむ空間を飲食店等がどのように確保してきたかを把握する。

3. 研究成果

(1) 伊丹市役所へのヒアリング

1) 調査前

2021年6月29日に、伊丹市で中心市街地活性化策を推進してきている伊丹市教育委員会の綾野昌幸生涯学習部長を訪問し、本研究の趣旨を説明するとともに、研究を進める上で協力いただくことについて了解を得た。本年度に開催される見込みの地域活性化イベントの動向を伺ったが、この時点では第3回の緊急事態宣言が発出中であり、具体的な動きはまだなく、動きがある際に情報提供をいただくこととなった。なお、この際に本研究で取り上げる「伊丹郷町屋台村」などの地域活性化イベントが行われる伊丹市が管理する道路である「三軒寺前広場」の占用許可の手続きに関して伺った。伊丹市役所では、都市活力部産業振興室まちなかにぎわい課において「三軒寺前広場」を利用する地域活性化イベントに関するノートが置いてあり、個々の地域活性化イベントを所管する担当課がそれに記載することで調整を行っており、過去に開催実績がある場合は、比較的円滑に道路占用の許可が下りるとのことであった。

2) 調査後

2022年3月23日に、伊丹市役所を訪問し、伊丹市教育委員会の綾野昌幸生涯学習部長に調査結果の概要を報告した。また、同市都市活力部産業振興室まちなかにぎわい課の水野和珠氏に調査結果を報告するとともに、同市の今後の方向性についての見解を伺った。伊丹市では内閣官房に『第3期伊丹市中心市街地活性化基本計画』の認定申請をしており、同計画では「ほこみち（歩行者利便増進道路）」制度等の活用検討を進める等の記載がされているとのことであった。

(2) 「伊丹郷町屋台村」に参画する飲食店と参加者へのアンケート調査等の結果

1) 参加者へのアンケート調査結果

開催日の2021年11月6日（土）・7日（日）の両日、11時～20時30分まで終日、対面による調査票調査を実施した。11月6日は171名、7日は207名、合計378名であった。なお、実行委員会では参加者数を計測していないが、実行委員長の談による8,000人～10,000人という人数の10,000人と仮定した場合、母集団特性値の推定を誤る確率を5%とした場合の必要とする標本数は370名と考えられることから、378名はこれを満たしている。

① 単純集計結果

以下に、378名からの回答の単純集計を図6～図18に示す。まず、回答者の属性についてみる。住所は、記入無しを除いてみると、兵庫県が307名と圧倒的に多く（図6）、そのうち市町村の記入のあったものでは伊丹市が268名となっている（図7）。ただし、兵庫県の伊丹市の近隣市や大阪府内からも一定程度来場している。年齢は40代が最も多くなってお

り、それを中心に各年代が参加している（図8）。性別は男性よりも女性の回答者が多かった（図9）。参加者の来場時間は、昼頃と夕方以降に多い傾向がみられる（図10）。参加者が何人で来たかは「2人」が最も多く、複数人が多い傾向にあり、「1人」は少ない（図11）。参加回数は「初めて」の参加者が129名と比較的多いが、それ以外はリピーターであり、5回目以上の「その他」が107名と多い（図12）。開催を知ったのは「知人から」が95名と最も多く、ついで「チラシ」で、「通りすがり」という回答も多い（図13）。

つぎに、参加者の意識についてである。屋外での飲食イベントの印象は、「良い」が259名、「比較的良い」が88名であり、これらを合わせると約91.8%の参加者から好意的に受け止められている（図14）。コロナ対策の安全性については、「普通」が130名と最も多かった（図15）。屋外イベントの頻度については、「増やすべき」が105名、「どちらか」というと増やすべきが128名と合計で過半となるが、「現状維持」の回答が142名で見られた（図16）。伊丹市以外での屋外イベント実施の要望については、「望む」が160名、「どちらか」というと望むが108名となっている（図17）。屋外での飲食関係イベントで重要と考える要素については、「美味しい食べ物」「美味しい飲物」「清潔感」「安全性」「快適性」の順となった（図18）。

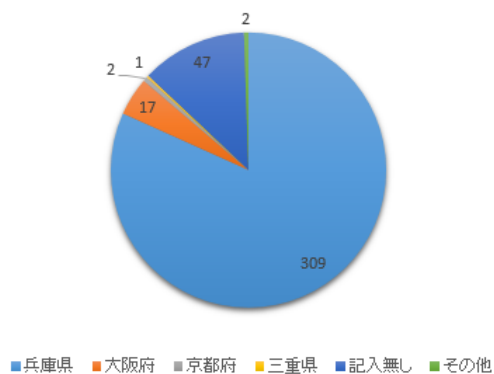


図6 回答者の居住する都道府県

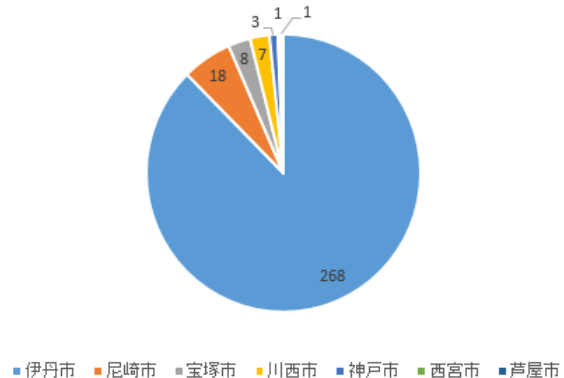


図7 兵庫県の回答で市の記載のあった数

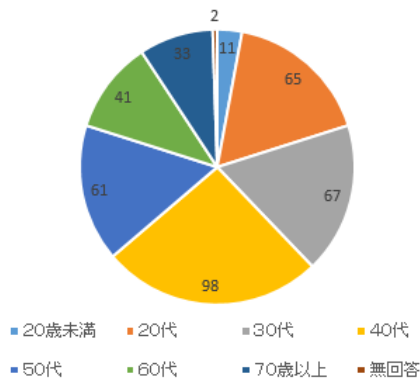


図8 回答者の年齢

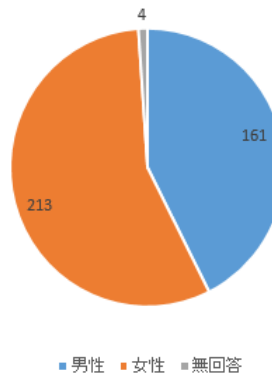


図9 回答者の性別

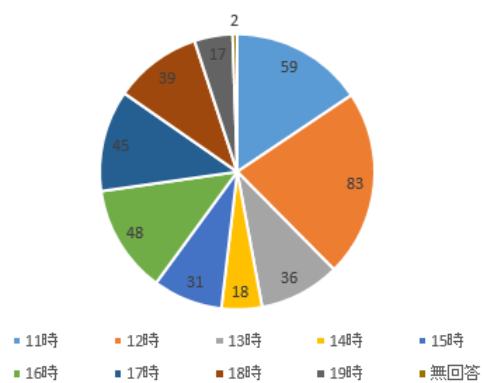


図10 回答者が来訪した時間

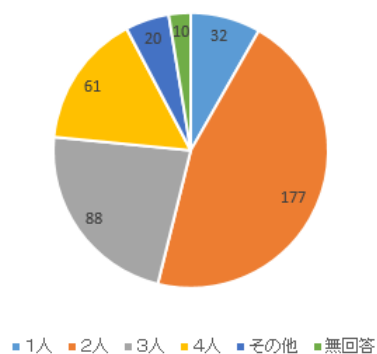


図11 回答者の来訪の際の人数

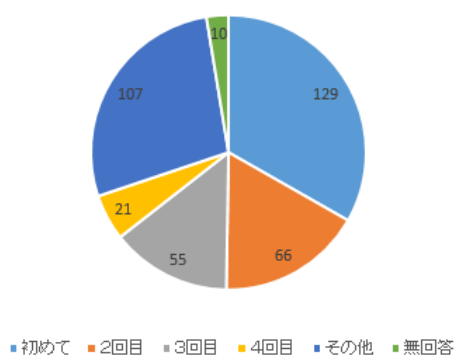


図12 回答者のこれまでの参加回数

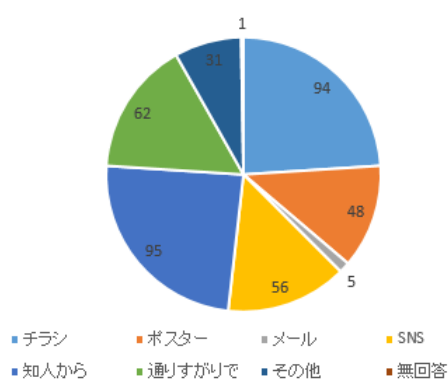


図13 回答者が今回の開催を何により知ったか

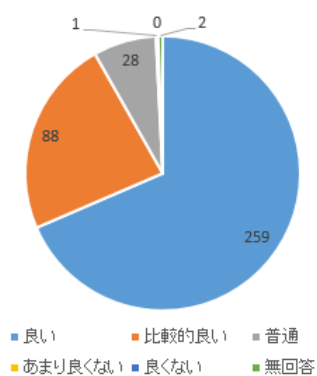


図15 屋外での飲食イベントの印象

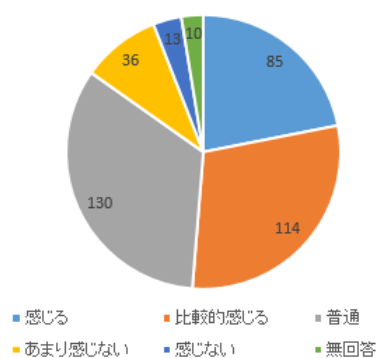


図14 コロナ対策についての安全性の印象

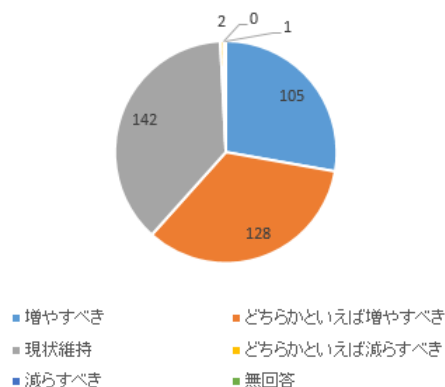


図16 屋外での飲食イベントの頻度

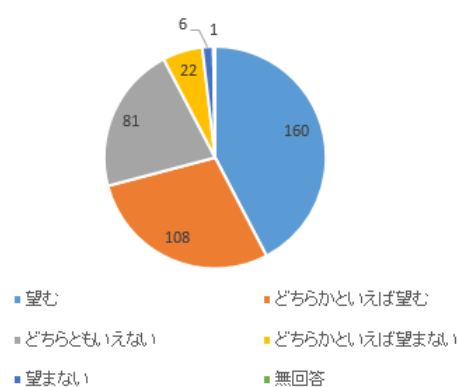


図17 伊丹市以外での屋外飲食イベント実施の要望

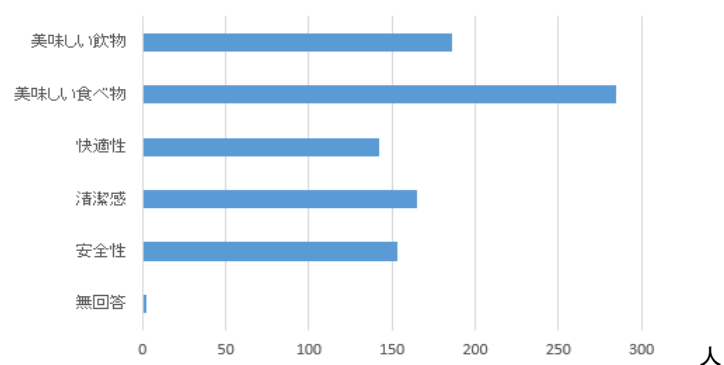


図18 屋外での飲食イベントで重要と考える要素（複数回答可）

②クロス集計結果

a. 開催を何で知ったかについて

調査票では「伊丹郷町屋台村の開催を何で知りましたか?」という設問とした。回答は選択式で、「1 チラシ」「2 ポスター」「3 メール」「4 SNS」「5 知人から」「6 通りすがり」「7 その他」とした。「7 その他」は、記述も求めた。

年齢別にみると、図19のように「1 チラシ」や「5 知人から」がいずれの年代でも多い傾向にある。また、「4 SNS」は20代から40代で多くみられる。

男女別にみると、図20に示すとおり大きな差異はみられないが、女性で「5 知人から」がやや大きい割合を占めている。

「7 その他」の記述は、回答者を「伊丹市内在住」「伊丹市以外」「未記入」に分けて記載すると以下のとおりであった。

「伊丹市内在住」では、「広報伊丹」3名、「毎回来ている」3名、「近くに住んでいる」2名、「家族」2名、「出店者身内」1名、「配送先のため」1名となっている。

「伊丹市以外」では、「会社」2名、「家族」1名、「前から知っている」1名、「先生の公演を見に」1名となっている。「住所未記入」では、「広報伊丹」1名、「コミュニティ新聞」1名、「毎年来ている」2名、「Google」1名となっている。

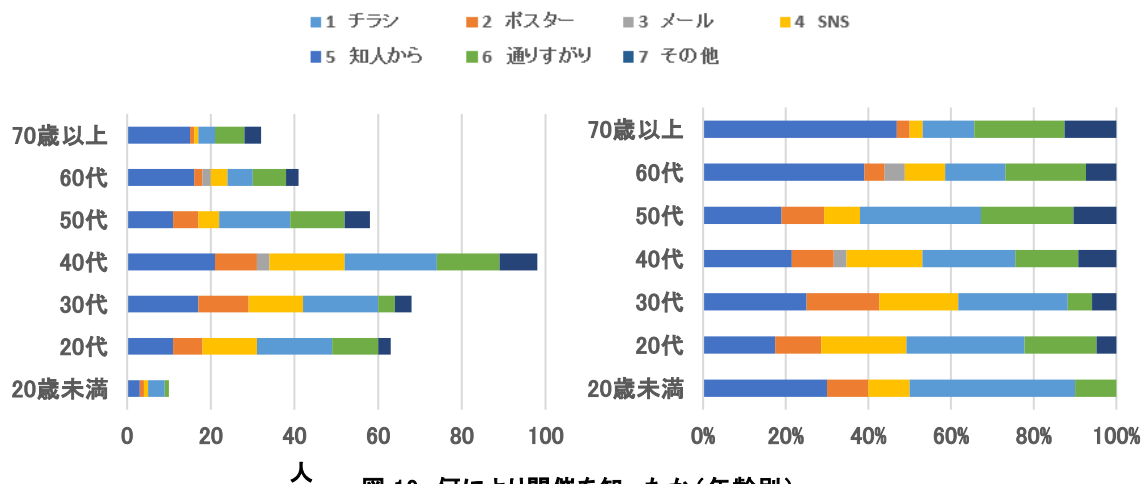


図 19 何により開催を知ったか(年齢別)

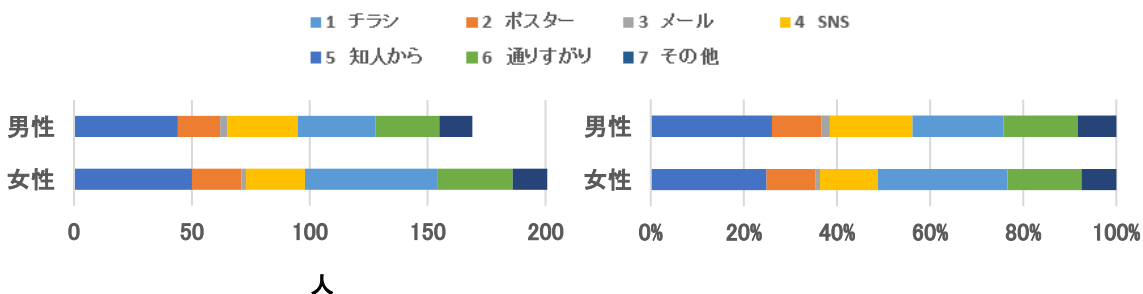


図 20 何により開催を知ったか(男女別)

b. 屋外での飲食イベントに参加してどのように感じるかについて

調査票では「伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベントに参加してどのように感じますか?」という設問とした。回答は選択式で、「1 良い」「2 比較的良い」「3 普通」「4 あまり良くない」「5 良くない」とした。

年齢別にみると、図 21 で示すように「1 良い」の割合は若年層から年齢が上がるに従い、やや減少する傾向が示された。

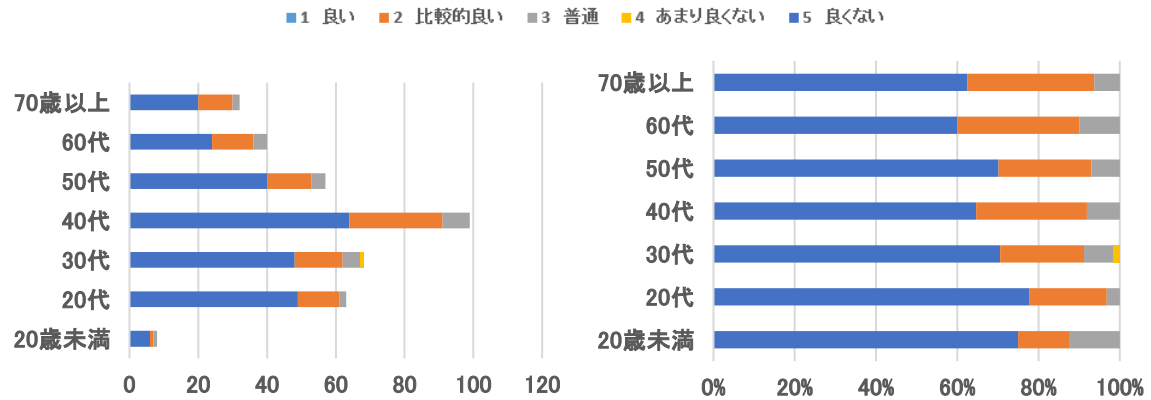
男女別にみると、図 22 に示すとおり大きな差異はみられない。

c. コロナ対策の安全性の印象について

調査票では「伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベントについてコロナ対策の安全性を感じますか?」という設問とした。回答は選択式で、「1 感じる」「2 比較的感じる」「3 普通」「4 あまり感じない」「5 感じない」とした。

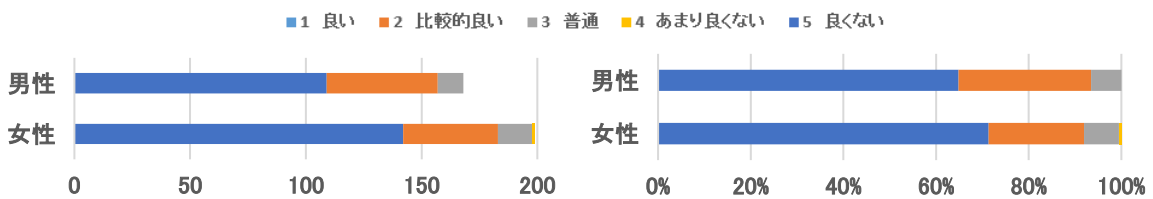
年齢別にみると、図 23 で示すように 20 歳未満を除くと、20 代から年齢が上がるに従い、「1 感じる」や「2 やや感じる」の割合が、やや増加する傾向が示された。

男女別にみると、図 24 に示すとおり大きな差異はみられないが、女性が男性に比べ、「1 感じる」や「2 やや感じる」がやや大きい割合を示した。



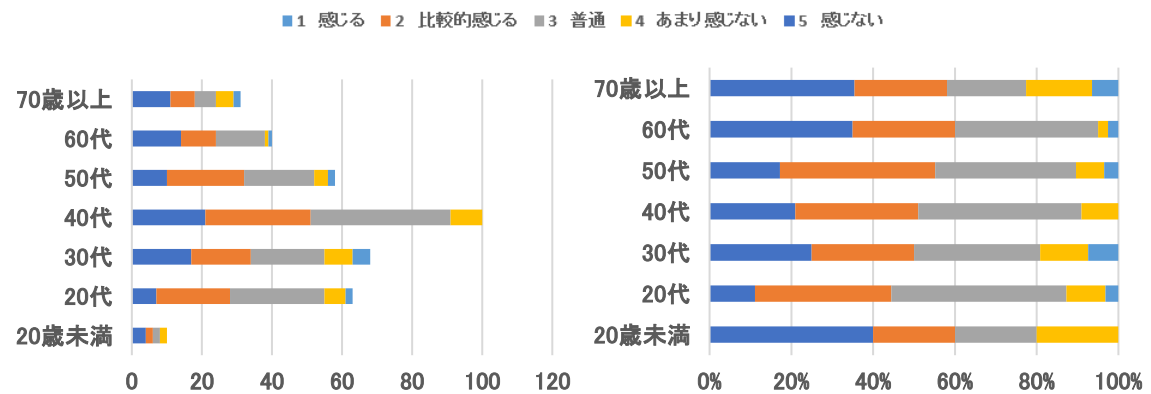
人

図 21 屋外での飲食イベントの印象(年齢別)



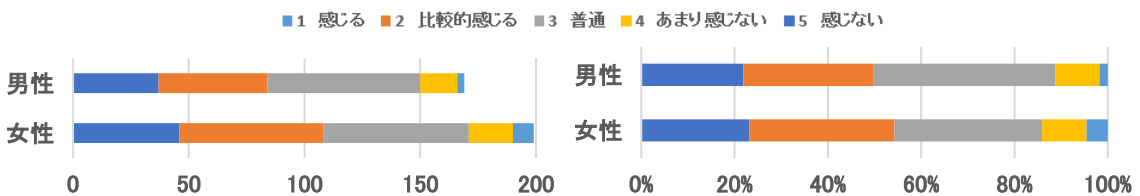
人

図 22 屋外での飲食イベントの印象(男女別)



人

図 23 コロナ対策についての安全性の印象(年齢別)



人

図 24 コロナ対策についての安全性の印象(男女別)

d. 屋外での飲食イベントの開催頻度について

調査票では「屋外での飲食関係イベントの頻度についてどのように思いますか?」とい

う設問とした。回答は選択式で、「1 増やすべき」「2 どちらかという増やすべき」「3 現状維持」「4 どちらかという減らすべき」「5 減らすべき」とした。

年齢別にみると、図 25 で示すように 70 歳以上を除くと、20 代から年齢が上がるに従い、「1 増やすべき」の割合が、やや増加する傾向が示された。

男女別にみると、図 26 に示すとおり、男性が女性に比べ、「1 増やすべき」や「2 どちらかという増やすべき」がやや大きい割合を示した。

e. 伊丹市以外での屋外飲食イベント実施の要望について

調査票では「屋外での飲食関係イベントは他の伊丹市以外の地域でも実施されることを望みますか?」という設問とした。回答は選択式で「1 望む」「2 どちらかという望む」「3 どちらともいえない」「4 どちらかという望まない」「5 望まない」とした。

年齢別にみると、図 27 で示すように 20 歳未満と 40 代、70 歳以上を除くと、いずれの年代も「1 望む」や「2 どちらかという望む」の合計の割合が、70%以上を示している。なお、40 代は 69.4%と 70%に近い。男女別にみると、図 28 に示すとおり、男性が女性に比べ、「1 望む」や「2 どちらかという望む」がやや大きい割合を示した。

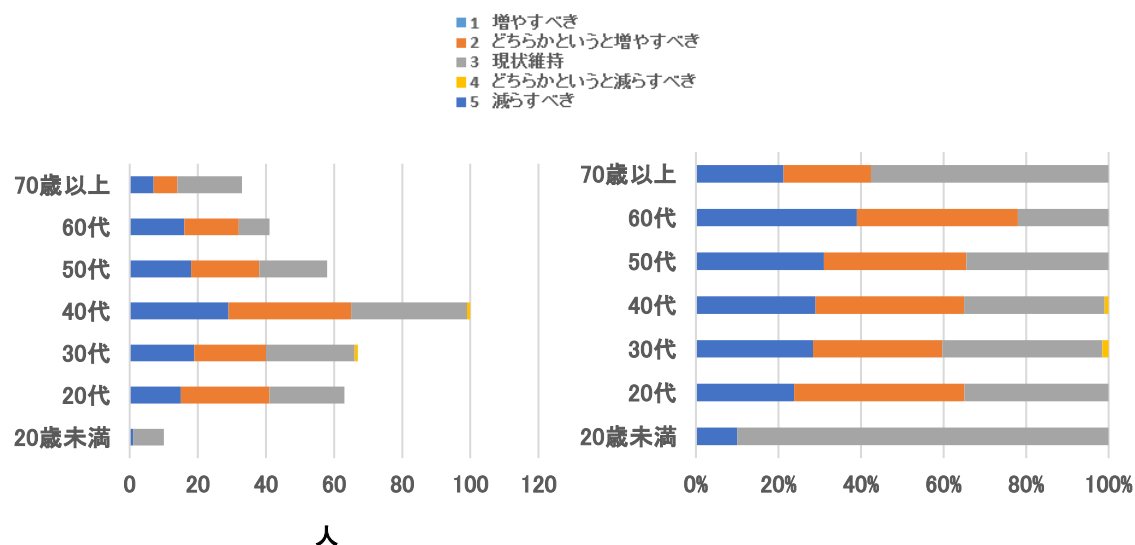


図 25 屋外での飲食イベントの頻度(年齢別)

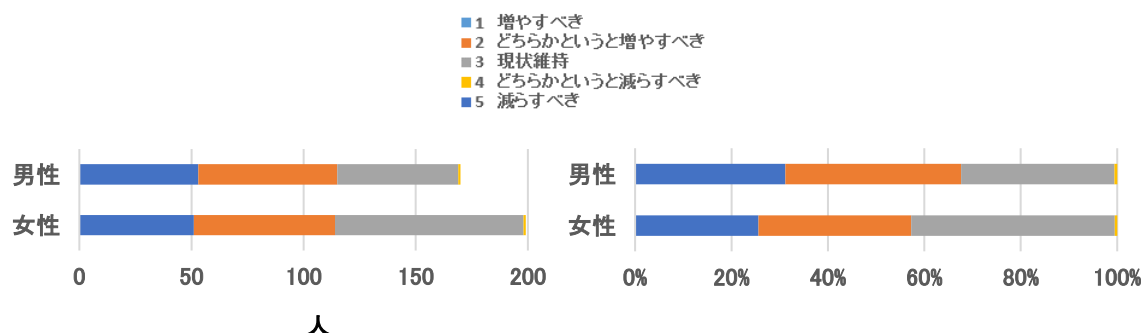


図 26 屋外での飲食イベントの頻度(男女別)

地域別にみると、図 29 に示すとおり、他地域では「1 望む」「2 どちらかという望む」「3 どちらともいえない」のいずれかであり、「4 どちらかという望まない」「5 望まない」の回答者はいない。一方、伊丹市民では「4 どちらかという望まない」「5 望まない」の回答がみられる。

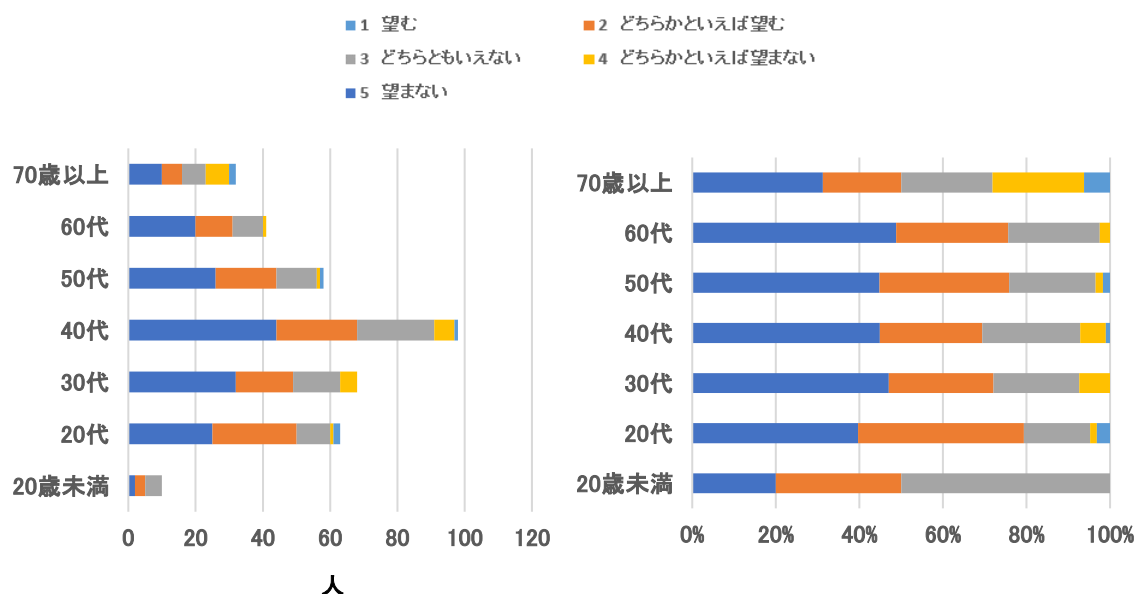


図 27 伊丹市以外での屋外飲食イベント実施の要望(年齢別)

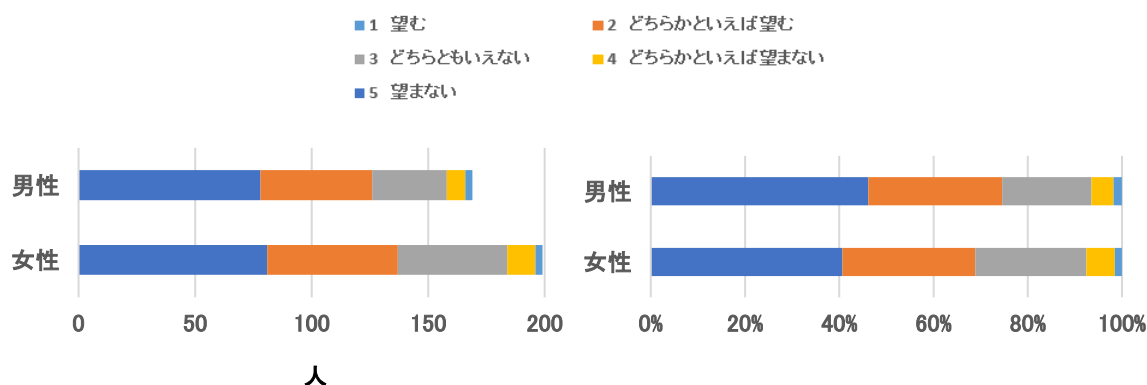


図 28 伊丹市以外での屋外飲食イベント実施の要望(男女別)

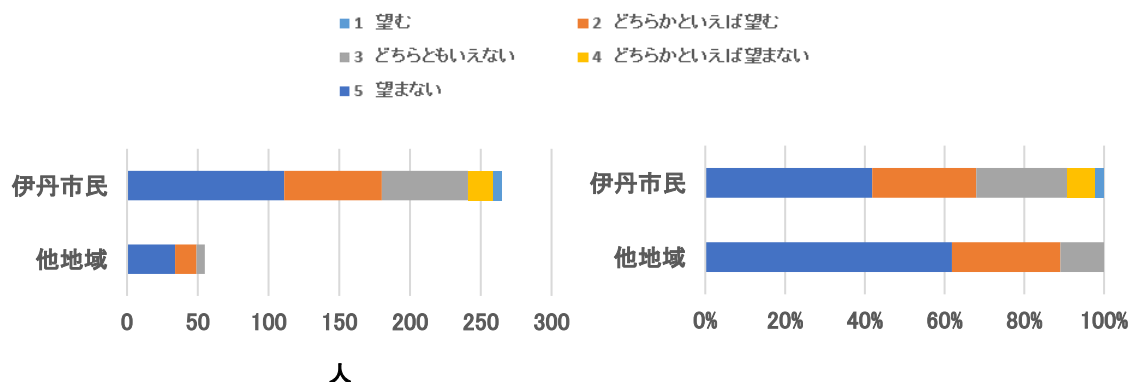


図 29 伊丹市以外での屋外飲食イベント実施の要望(地域別)

f. 屋外での飲食関係イベントで重要と考える要素について

調査票では「屋外での飲食関係イベントで重要と考える要素について○を付けてください」という設問とした。回答は選択式複数回答可とし、「1 美味しい飲物」「2 美味しい食べ物」「3 快適性」「4 清潔感」「5 安全性」とした。

選択式複数回答可としたことから、年齢別および男女別について傾向を把握するため、一人あたりどれだけ選択されたことを示すように選択率（選択者数÷カテゴリー別人数）として示す。

いずれの年齢および男女ともに、「美味しい食べ物」「美味しい飲物」が重視されている（図 30、図 31）。女性は「4 清潔感」、男性は「3 快適性」を重視する傾向にある（図 31）。

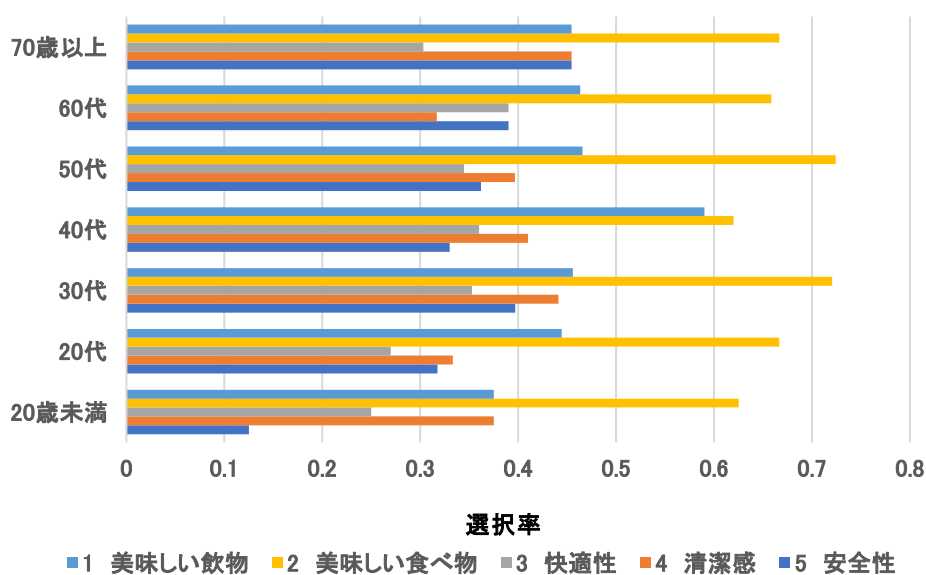


図 30 重要と考える要素（年齢別）

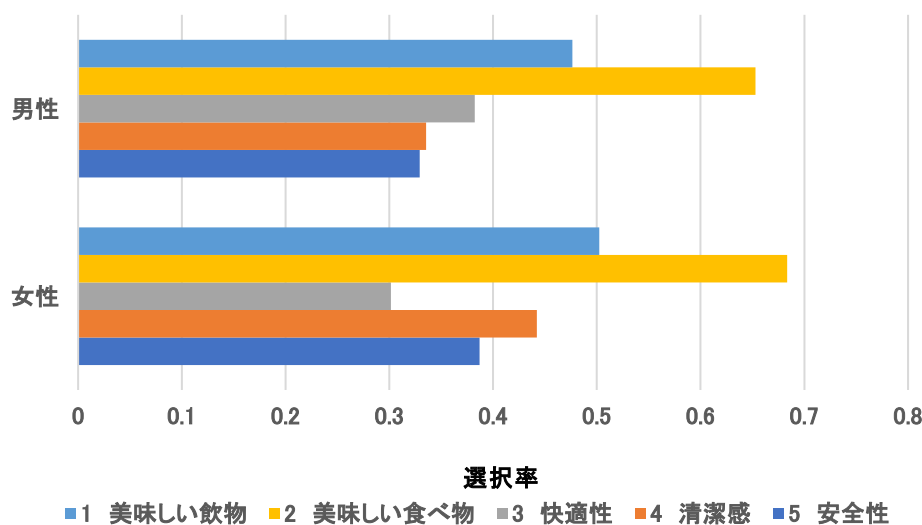


図 31 重要と考える要素（男女別）

g. 伊丹市内で開催される他の飲食関係イベントへの参加経験について

この質問については記述式とした。記述がある場合、複数のイベントが書かれている場合がある。以下に参加者の住所により分けて記載する。

「伊丹市内在住者」で最も多いのは「伊丹まちなかバル」で 66 名であった。ついで、「イタミ朝マルシェ」が 35 名、「伊丹クリスマスマーケット」が 10 名となっていた。これらのいずれもが、伊丹市のまちづくり会社である伊丹まち未来（株）が事務局となり三軒寺前広場で開催されるイベントである。

つぎに、「伊丹市以外在住者」で最も多いのは「伊丹まちなかバル」で 11 名であった。ついで、「イタミ朝マルシェ」が 2 名となっていた。

つぎに、「住所未記入者」で最も多いのは「伊丹まちなかバル」で 12 名であった。ついで、「イタミ朝マルシェ」が 7 名、「伊丹クリスマスマーケット」が 2 名となっていた。

このように、参加者アンケートでの回答をみると、屋台村への参加のみならず、三軒寺前広場で開催されるイベントに参加した経験があることが窺える。

h. 伊丹郷町屋台村に関する意見について

この質問については記述式とした。

まず、「伊丹市内在住者」である。「ありがとうございます」など屋台村開催に対する感謝を示す記述が 8 名でみられた。

屋台村を評価するものとして「楽しい」などの記述が 31 名、「良い」などの記述が 12 名、「嬉しい」の記述が 2 名、「好き」の記述が 2 名であった。また、屋外での開催を評価する記述が 4 名、提供される飲食物を評価する記述が 4 名であった。

今後への期待に関するものとして、「継続して開催してほしい」等の記述が 15 名でみられ、「盛り上げてほしい」等が 7 名、「がんばってほしい」等が 3 名でみられる一方、「現状維持」等の記述が 3 名でみられた。また、参加店舗数について「増やしてほしい」等の記述が 8 名でみられた。

設備については、「席数が多くて良い」等の記述が 6 名でみられた。また、「仮設トイレが欲しい」といったトイレの要望の記述が 4 名でみられた。

運営に関しては、「子ども向けのお店があると良い」といった記述が 6 名でみられ、「スイーツがあつたら嬉しい」といったお酒を飲めない人向けの意見が 2 名からあった。また、「もう少しコスパが良かったらいい」といった価格に対しての記述が 5 名からなされた。

このように「伊丹市内在住者」の意見は概ね良好なものがほとんどであり、設備や運営に関する建設的な意見が出されている。なお、「伊丹市以外在住者」および「住所不明者」の記述についてみても、「伊丹市内在住者」の意見と同様の傾向で、概ね良好なものがほとんどであり、意見があるとすれば設備や運営に関する建設的なものであった。

3) 参加店へのアンケート調査結果

開催日後に実行委員長を通じて参加店 11 店に調査票を配布し、8 店より回答を得た。

回答者の年齢は 20 代 1 名、30 代 2 名、40 代 4 名、50 代 1 名で、性別は男性 7 名、女性 1 名で、これまでの伊丹郷町屋台村への参加状況は初参加が 1 名で、7 名はこれまでの参加経験があった。「伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベント実施に参加してどのように感じますか？」との問いには、「良かった」が 7 名、「比較的良かった」が 1 名で、「普通」「あまり良くなかった」「良くなかった」の回答は 0 名であった。「伊丹郷町屋台村のような屋外での飲食関係イベント実施についてコロナ対策の安全性を感じますか？」との問いには、「感じる」が 1 名、「比較的感じる」が 3 名、「どちらともいえない」が 3 名、「あまり感じない」が 1 名で、「感じない」は 0 名であった。「屋外での飲食関係イベントの頻度についてどのように思いますか？」との問いには、「増やすべき」が 5 名、「どちらかといえば増やすべき」が 1 名、「現状で良い」が 2 名で、「どちらかといえば減らすべき」「減らすべき」の回答は 0 名であった。屋外での飲食関係イベントで重要と考える要素についての選択率は、「美味しい飲物」が 75.0%、「美味しい食べ物」が 87.5%、「快適性」が 62.5%、「清潔感」が 37.5%、「安全性」が 37.5%となっていた。

伊丹郷町屋台村への意見は以下のとおりであった。

- ・ 毎回屋台村の時に同じお客さんを何人も見かけるので、根付いていると思います。
- ・ 初出店させて頂き、屋台村の後伊丹の飲食店の絆を強く感じる事ができました。
今後とも伊丹の飲食店をもっと盛り上げたいと思います。
- ・ 天候に左右されるイベントなので、今回は気温や天気などが良く良かったです。
- ・ 街の活気を戻すためにも今後も続けてほしい。
- ・ 良くも悪くも面白いイベントで、毎回自分達も成長させてもらえるイベントだと思う。
- ・ とても良いと思う。
- ・ 回答なし 2 名

4) 実行委員長へのヒアリング結果

実行委員長に、コロナ禍での伊丹郷町屋台村実施の発案者、三軒寺前広場の利用、実施に際しての安全面の配慮、今後について等について確認した。

① 発案者について

発案者は、実行委員長ともう 1 名である。2021 年は、8 月末に当初は開催予定だったが、緊急事態宣言の発表を受けて、早々に延期を決断した。その後、緊急事態解除を受けてすぐに準備に取り掛かり、約 1 ヶ月の準備期間で開催した。

② 三軒寺前広場の利用について

三軒寺前広場の利用にあたり、道路占用の手続きがなされた。伊丹市に申請したのは 10 月上旬、警察への道路使用許可は開催から 2 週間前までに申請を終わらせる必要があるの

で、それ以前に申請を終わらせた。

③ 実施に際して安全面での苦勞について

保健所に関しては、昨年も本年もコロナ対策に対しては一切何も言われず、それよりも食中毒（O-157 など）には注意してほしいと言われた。コロナ対策に関しては、野外イベントということがあるのと昨年も屋台村での感染者数は0人ということがあるので、マスク、消毒、ガイドラインなどの必要最低限の対策のみであった。

④ 実施に際して実行委員会を取りまとめる点での苦勞について

LINE グループで屋台村の開催についてアナウンスしてきたので、参加店舗の募集は比較的簡単であったが、昨年参加した店舗がほとんどで、昨年と違う店舗が1店舗だったので残念である。来年以降はもう少し増やしたい。

⑤ 今後について

今回の屋台村のコンセプトとして、「外食が楽しい」と改めて感じてもらおうであった。開催当日のみではなく、参加店舗のみでもなく、外で食べることの楽しさが広がって伊丹の飲食店の底上げになれば良いと思っている。この先がどうなるのかまだ分からないが、それよりも今できることを頑張り、逆境に強い店舗が増えればそれが伊丹の飲食店の明るい未来になるのではないかとと思っている。

⑥ 本部スタッフについて

本部はボランティアスタッフ（屋台村サポーター）で運営している。今回は9人であった。今回の参加者全員すでに何度も屋台村を経験している方達なので、ゴミやテーブルの片付けは店舗よりも速やかに動いてくれる。

⑦ 音楽イベント等との調整について

実行委員長が対応している。

⑧ 商店街振興会について

プレミアム商品券は今年限りである。今回屋台村とたまたま日程が重なり開催日に販売ということになった。

4. 考察

伊丹市へのヒアリング結果から、従前から道路である三軒寺前広場を中心市街地活性化のためのイベントで活用してきており、コロナ禍においても同様に活用し、イベントの実施主体が迅速に取り組めるような工夫がされていた。今後もより一層活用していくことを検討していく方向であることが把握できた。

「伊丹郷町屋台村」は、同実行委員会の委員長をはじめ参加店が、コロナ禍から地域が復興していくための先行した取組みと認識し、参加者に楽しんでもらおうという気概をもって臨んでいた。

「伊丹郷町屋台村」への参加者の多くが、コロナ禍での開催を好意的に捉え、実際にそ

の憩える空間を楽しんでいた。このような空間を伊丹市民は享受し、伊丹市以外の来訪者は、他の地域でも同様のイベントの開催を望む傾向にあるといえよう。

5. 結論

伊丹市はコロナ禍以前から道路である三軒寺前広場を中心市街地活性化のためのイベントの開催場所として活用してきた。この蓄積があることが、コロナ禍においても実行委員会が感染者数の推移や緊急事態宣言の発出・解除といった状況を見据えながら「伊丹郷町屋台村」の開催を決定してから迅速に実施に至ったことに寄与しており、嗜好品を楽しめる空間を創出し参加者に提供することができた。また、「伊丹郷町屋台村」が盛会であったのは伊丹市や実行委員会のみならず、その開催を楽しみに待ち、参加し、楽しみを享受している多くの参加者もあって成立している。三者による支え合いのように捉えられる。

このことは、伊丹市というコロナ禍以前の様々な地域活性化イベントの実績がある地域であるから実現できるようにみえる。しかし、このような空間を活用する意思が道路管理者や事業実施者にあり、充実したコンテンツが提供されれば、他の地域においても嗜好品を楽しめる空間を創出することは可能ではないだろうか。

2022年3月23日の伊丹市役所へのヒアリングの翌日に『第3期伊丹市中心市街地活性化基本計画』が認定され、「「ほこみち（歩行者利便増進道路）」制度等の活用検討を進める等、ウォーカブルな公共空間の創出を図り、にぎわいに繋げる。」と記載された。今後は嗜好品を楽しめる空間が常態化することも考えられる。

6. 引用文献

綾野昌幸、「鉄道会社と寄り添うまちづくりー駅をつなぐ面的整備とにぎわいに向けた取り組みー」、『都市住宅学』、2017、97号、44-49頁。

石原肇、「コロナ禍における兵庫県伊丹市にみる飲食店支援施策の迅速な展開」、『日本都市学会年報』、2021、54巻、25-30頁。

泉山墨威、「ウォーカブルとパブリックスペース活用の先にある都市像ーオーストラリア・メルボルン「20分圏ネイバーフッド」と「FUTURE MELBOURNE」にみる考察」、『新都市』、2020、74巻8号、27-31頁。

泉山墨威・西田司・石田祐也・宋俊煥・矢野拓洋・濱紗友莉・小原拓磨、「「コロナ道路占用許可」における路上客席の可能性と課題ー新型コロナウイルス感染症に伴う路上客席の緊急措置に関する速報的考察ー」、『都市計画報告集』、2020、19号、284-289頁。

伊丹市「伊丹のこと」、2022

<https://www.city.itami.lg.jp/mirai/sinasyoukai/21179.html>

（最終閲覧日：2022年2月24日）

伊丹市『第3期伊丹市中心市街地活性化基本計画』

<https://www.city.itami.lg.jp/material/files/group/69/chukatsu3kizentai.pdf>

(最終閲覧日：2022年4月26日)

浦野正樹「特集「新型コロナ感染状況下に生きる」」、『日本都市学会年報』、2021、54巻、5-7頁。

長坂泰之・新雅史「コロナ禍は商店街にいかなる影響を与えたかー緊急事態宣言期における神戸元町商店街実態調査よりー」、『流通科学大学論集 流通・経営編』、2021、33巻2号、121-137頁。

内閣官房「新型コロナウイルス感染症 緊急事態宣言の実施状況に関する報告」、2021

https://corona.go.jp/news/pdf/houkoku_r031008.pdf

(最終閲覧日：2022年2月24日)

日本気象協会「神戸（兵庫県）の過去の天気」、2021

<https://tenki.jp/past/2021/11/weather/6/31/47770/>

(最終閲覧日：2022年2月24日)

兵庫県「これまでの県内の新型コロナウイルス感染症患者の発生状況」、2022

https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk03/corona_hasseijyokyo2.html

(最終閲覧日：2022年6月12日)

渡辺暁雄・水谷史男「新型コロナ時代における地方商店街の現状:2020年度「酒田市商店街実態調査」から」、『東北公益文科大学総合研究論集』、2021、40巻、17-50頁。

7. 英文アブストラクト

The purpose of this study is to investigate how to create a space where people can enjoy their luxury items under the COVID-19 pandemic. For this reason, the theme was "Itamigouchou Food Stall Village" held in Itami City, Hyogo Prefecture in 2021. "Itamigouchou Food Stall Village" is held at "Sangenji-mae Square". This "Sangenji-mae Square", which is called "Square", is a "Road" managed by the city. On the "Road" managed by the city, a "Road Occupancy Permit" is required when holding an event. Itami City had built a system that allows event organizers to respond promptly when holding an event. I conducted a questionnaire to the participants of "Itamigouchou Food Stall Village". Participants took this event positively. Itami City intends to further utilize the "Sangenji-mae Square" in the future. If this idea is put into practice, the space where people can enjoy their favorite items will become more stable.